

Ⅲ 桜等樹木再配置計画

1. 桜等樹木再配置計画の将来像と基本目標

樹木の育成上の課題等を踏まえ、神之池緑地全体における桜等樹木の再配置及び維持管理に関する基本理念・将来像と基本目標について設定を行います。

【基本理念・将来像】

桜等樹木再配置計画の推進においては、「基盤」、「緑」、「人」の3つの観点を基に、各観点の活性化と質の向上、ならびに3つの観点の相互作用を高めていくことを基本理念とし、『豊かな緑と水、にぎわいにあふれる神之池緑地』を将来像として設定します。

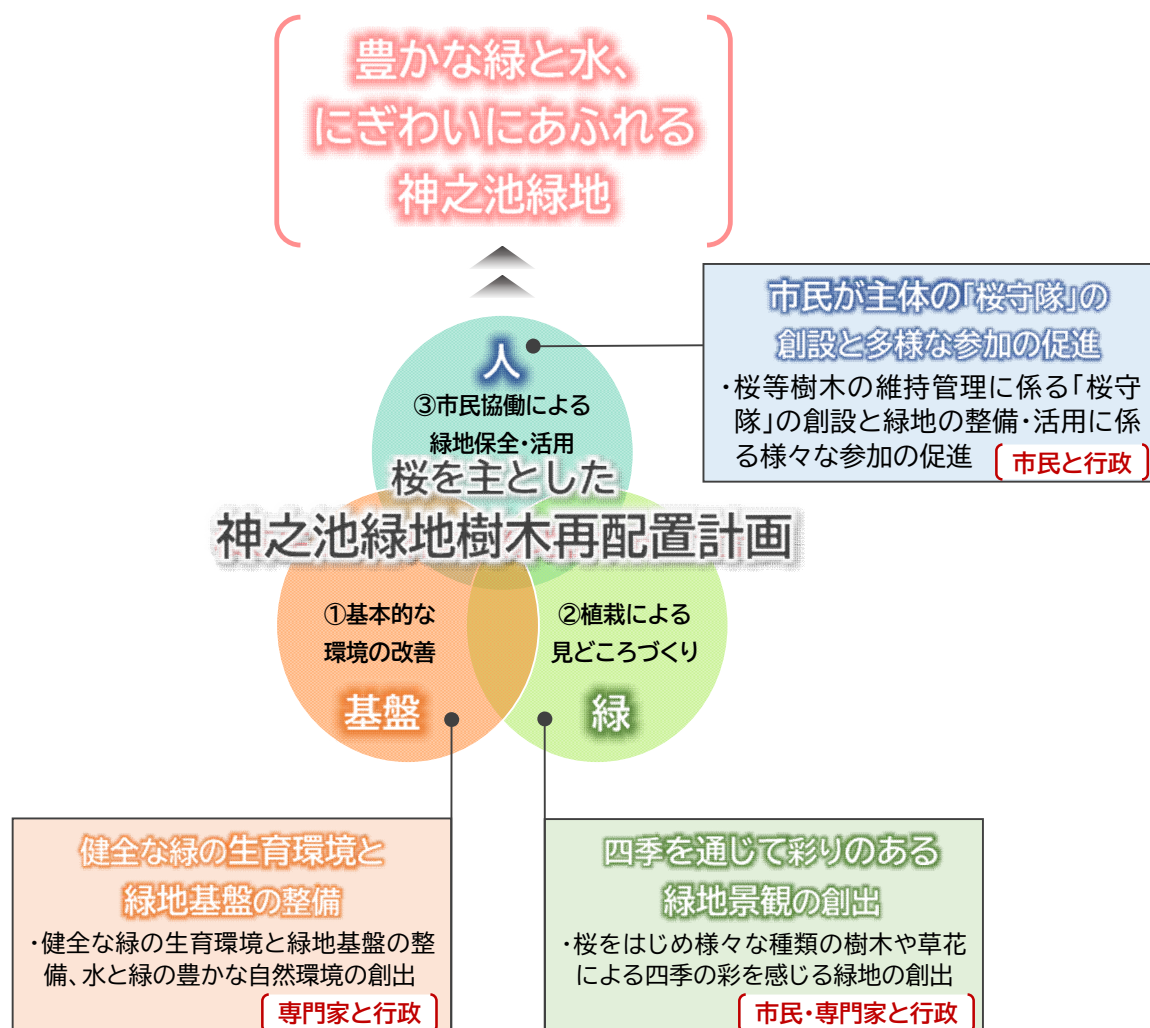
「基盤」では、土壌改良等による健全な生育の育成環境の改善・健全化を、

「緑」では、桜を中心に他の樹木も含めた緑の見所の創出を、

「人」では、樹木の維持管理への市民参画と様々な主体との協働の促進を、目指していきます。

専門家、市民及び行政が、それぞれの役割を担い、連携を図りながら取組を進めていきます。

■基本理念・将来像



[基本目標]

基本理念・将来像を踏まえ、**1 桜の名所づくり**、**2 四季折々の魅力づくり**、**3 市民が参加できる緑地づくり**、を基本目標として設定します。

基本目標1 桜の名所づくり

◎桜の魅力を高め、さらに楽しめる場所とする。

【取組の例】（ワークショップでの意見等）

- ・サクラの樹種を増やす。
（カワヅザクラ、オオシマザクラ、サトザクラ、シダレザクラ、カンヒザクラ等）
- ・開花時期を長く。病害虫にも強く。
- ・桜の風よけ、潮よけの為の植栽。
- ・土壌の改良を進める。
- ・花見エリアの充実、シンボルツリーの育成。
- ・管理体制をしっかりとる。
- ・ライトアップや眺望スポットの検討。
- ・ガイドツアーの検討。



基本目標2 四季折々の魅力づくり

◎春・夏・秋・冬を通じて魅力のある場所とする。

【取組の例】（ワークショップでの意見等）

- ・四季それぞれに咲く草・花・樹木を植える。
（アジサイ、コスモス、ヒマワリ等）
- ・草花のエリアを設ける。（四季折々の花）
- ・潮風につよいものを植える。
- ・実がなる樹種、収穫が楽しめる樹種の検討。
（⇒市民参加の促進）



基本目標3 市民が参加できる緑地づくり

◎市民協働による桜等樹木の維持管理や緑地整備を推進する。

【取組の例】（ワークショップでの意見等）

- ・多くの市民が気軽に参加できることが大事。（⇒口こみ、人づてを活かす）
- ・樹木まわりの下草取りなど、市民ができるボランティア活動を推進。手当て等の検討。
- ・花壇づくりの体制づくり。（既存組織、地域や学校等との連携）
- ・自分たちで育てる植栽スペースの設定、里親制度等の検討。
（各家庭で育てた苗を神之池緑地に植樹等）
- ・市民参加の植樹イベント、展示会等の開催。



2. ゾーン別の桜等樹木再配置の方針

桜等樹木の再配置及び維持管理に関する基本的な基本理念・将来像と基本目標を踏まえ、神之池緑地の立地特性を踏まえて区分したゾーンごとに、「基本方針」をはじめ、「樹木配置」、「彩計画〔候補樹木〕」、「基盤整備」、「施設整備」、「概ねの整備時期」、「当面の対応課題」等の整備方針について整理します。

計画期間については概ね10年間と想定し、緑地全体での調和・整合にも留意しながら、A～Iの9ゾーン毎に取組内容を整理していきます。

(1) ゾーン別の基本方針

A～Iの9ゾーンについて、基本方針（目指す方向性）を設定します。

■ゾーン区分と基本方針

ゾーン【区域】	基本方針（目指す方向性）
A 桜の優先改修ゾーン 【分庁舎裏、桜祭り会場周辺】	●桜の名所づくりの推進
B 公共施設周辺緑化ゾーン 【中央公民館・文化センター、多目的広場等周辺】	●公共施設の緑化による緑地環境の向上
C 芝生広場と緑陰形成ゾーン 【カフェ、大型遊具広場周辺】	●にぎわいづくりの中心地として魅力の向上
D 水際の緑地形成ゾーン 【グラウンドゴルフ場周辺】	●水辺を活かした緑地整備
E 桜並木育成・再生ゾーン 【池東端周辺】	●桜並木の育成・再生（桜の回廊づくり）
F 良好環境維持ゾーン 【パターゴルフ場周辺】	●パターゴルフ場としての緑地環境の保全
G 桜等の植替え・健全化ゾーン 【ふれあい橋先、花壇・あずまや周辺】	●四季を彩る多様な植栽環境の整備
H レクリエーション広場形成ゾーン 【野球場、鉄塔周辺】	●対岸のにぎわい・交流拠点の形成
I 並木改善ゾーン 【池西端周辺】	●多様な樹木による園路沿い景観の改善



■ゾーン別の基本方針



A:桜の優先改修ゾーン【分庁舎裏、桜祭り会場周辺】

● 桜の名所づくりの推進

数多くの桜（ソメイヨシノ）が植樹されているゾーンであり、かみす桜祭りのメイン会場となるゾーンですが、老朽木が多く、育成環境も必ずしも良好な状態とはいえません。現状の桜の植栽状況を踏まえながら、土壌等の育成基盤の改善を図るとともに、いろいろな種類の桜の植栽、シンボルツリーの育成、見所スペースの改善、防風対策など、さらに桜を楽しむことができる環境整備を進めていきます。

B:公共施設周辺緑化ゾーン【中央公民館・文化センター、陸上競技場、BBQ 場 等】

● 公共施設の緑化による緑地環境の向上

神之池の水辺に沿って、中央公民館・文化センター、陸上競技場、バーベキュー広場等の公共施設が立地し、また市庁舎、武道館等の主要公共施設も隣接するゾーンであるため、日頃より多くの人々が訪れるゾーンとなっています。植栽空間は限られるものの、公共施設敷地内や建物の緑化修景を通じて、良好な緑地環境の向上を図ります。また、これら公共施設の更新においては、神之池緑地への眺望景観に留意した施設整備に努めていきます。

C:芝生広場と緑陰形成ゾーン【カフェ、大型遊具広場周辺】

● にぎわいづくりの中心地として魅力の向上

近年、おしゃれなカフェのオープン、大型遊具や幼児用遊具の整備、芝生広場の整備が集中的に進められ、日頃から親子連れなどの多くの市民等でのぎわっているゾーンとなっています。引き続き、カフェの飲食・休憩の機能、大型遊具や芝生広場の子どもの遊び場の機能の維持向上を図りながら、緑のにぎわいづくりの中心地として、さらに魅力の向上を図っていきます。

D:水際の緑地形成ゾーン【グラウンドゴルフ場周辺】

● 水辺を活かした緑地整備

園路より水辺側には桜等の植栽が見られますが、土壌や風等の桜の育成条件としてはかなり不利な状況にあり、老朽木が多くを占めています。土壌改良等の育成条件の改善に向けた基盤整備とともに、水辺に広がる比較的まとまった平地という立地を活かした樹木配置や植栽（地被類等）について検討を行っていきます。また、陸地側のグラウンドゴルフ場での草花の植栽等の取組とも連携を図りながら、緑化修景の取組を進めていきます。

E:桜並木育成・再生ゾーン【池東端周辺】

● 桜並木の育成・再生（桜の回廊づくり）

神之池の東端に位置するゾーンであり、池南側では園路に沿って桜並木となっていますが、老朽化が著しく、将来的な並木の形成を考慮しながら計画的な更新を図っていきます。また、池北側では、水辺に面して残る空地を活かし、スポット的な盛土による土壌改良を行い、既存の桜並木との連続等も考慮しながら新たな種類の桜の植栽を進め、桜並木の拡充を図っていきます。また、東端の水際に立地する大木（アキニレ等）の保全とシンボリックな活用を図ります。

F:良好環境維持ゾーン【パターゴルフ場周辺】

● パターゴルフ場としての緑地環境の保全

パターゴルフ場を含むゾーンであり、ほぼ全域が盛土地となっており、桜等の状態も良好に保たれています。引き続き、この良好な緑地環境の維持に努めていきます。

G:桜等の植替え・健全化ゾーン【ふれあい橋先、花壇・あずまや周辺】

● 四季を彩る多様な植栽環境の整備

対岸のふれあい橋を挟み東西に広がるゾーンであり、水辺側には桜等が植栽されていますが、その多くは老朽化しています。まとまりあるスペースを活かして面的に土壌改良を行いながら、いろいろな種類の桜や地域の風土に適した実のなる樹木など、四季を感じることでできる樹木の植栽を進め、「彩」を演出していきます。また、既存の花壇等を活用し、テーマ性のある草花の植栽を進め、季節感の演出を図ります。

背後の緩衝緑地については、樹木が混み入り密集した状態が顕著であることから、適切な伐採や剪定により健全な育成環境を保っていきます。また、鉄塔移設地については、環境保全機能にも留意しながら、桜等をはじめ彩ある植栽環境への転換を図っていきます。移設によって生じるオープンスペースを活用し、維持管理活動に必要なバックヤード施設の整備等を検討していきます。

H:レクリエーション広場形成ゾーン【野球場、鉄塔周辺】

● 対岸のにぎわい・交流拠点の形成

神之池緑地の対岸の西端に位置するゾーンで、桜の植栽が行われてきましたが、育成状態は芳しくありません。スポット的な盛土等による土壌改良を行いながら、桜の計画的な更新を図っていくとともに、まとまって残る平地スペースを活かした芝生のレクリエーション広場等の整備を図り、対岸のにぎわい・交流拠点づくりを進めていきます。

I:並木改善ゾーン【池西端周辺】

● 多様な樹木による園路沿い景観の改善

桜の名所づくりの拠点となるAゾーンとの連続性を考慮しながら、桜の老朽木の更新、季節を彩る低木の植栽、水辺への景観を意識した改善（園路からの水辺への景観の確保に留意した高さとする等）を進め、桜をはじめ多様な樹木により園路沿い景観の向上を図っていきます。

(2) ゾーン別の整備方針

A:桜の優先改修ゾーン【分庁舎裏、桜祭り会場周辺】

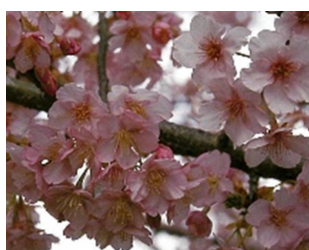
[基本方針]

● 桜の名所づくりの推進

[整備方針]

項 目	方針内容
樹木配置	●桜の不良木の更新（多品種の植栽-カワヅザクラ、オオシマザクラ等） ●桜の根本への植栽修景（土壌保全の観点から） ●防風樹木配置の検討（見せる防風植樹） ●桜の成長を考慮した樹間の確保（概ね8m以上） ●花壇の再整備（ひょうたん池周辺）
彩計画 [候補樹木]	[春] ○カワヅザクラ（2月下旬～3月上旬） ○ソメイヨシノ、オオシマザクラ、サトザクラ（3月中下旬～4月上旬） ○アメリカヒトツバタゴ（4月下旬～5月） ・不良木を撤去・間伐し、サクラを新植する。既存のサクラの良木は、大樹化を促進する。 [夏] ○アメリカリョウブ ピンクスパイアー（6月下旬～7月） ・不良木を伐採し、花木（園芸種）を新植する。既存樹林下に中木の花木で利用者の目線を華やかに演出する。
基盤整備	◎既存樹木に対する土壌改良（エアースコップ等）※土壌を柔らかくする措置 ◎スポット的盛土による土壌改良 ◎桜周りの堤形状の配置（シンボル樹木としての育成、根元保全、防風対策等）
施設整備	◆ベンチ等休憩施設の配置 ◆桜の見所スペースの確保・整備
概ねの実施時期 （主な取組）	▼短期1～3年（不良木の植替え、既存樹木の土壌改良、スポット盛土等） ▼中期4～6年（シンボル桜周りの堤整備等）
留意事項	●グラウンドゴルフ利用での植栽への配慮 （桜の育成を第一に考えるべきゾーンとしての周知）

[候補樹木イメージ]



カワヅザクラ



サトザクラ



オオシマザクラ



アメリカ
ヒトツバタゴ



アメリカ
リョウブ

B:公共施設周辺緑化ゾーン【中央公民館・文化センター、陸上競技場、BBQ 場 等】

【基本方針】

● 公共施設の緑化による緑地環境の向上

【整備方針】

項 目	方針内容
樹木配置	● 公共施設敷地内の緑化修景（特に池側敷地内） ● 良好な既存樹木の保全（バーベキュー広場の藤棚等） ● 防風樹木配置の検討（見せる防風植樹） ● 公共施設整備に合わせた景観樹木の植栽（体育館再整備等）
彩計画 [候補樹木]	[秋] ○キンモクセイ、ギンモクセイ（9月～10月） ・不良木を伐採、「香り」も演出する花木を新植する。
基盤整備	◎スポット的盛土、植穴改良による土壌改良
施設整備	◆ 公共施設再整備での眺望に留意した整備の検討（体育館再整備等） ◆ バーベキュー広場のリニューアルの検討
概ねの実施時期 （主な取組）	▼ 中期4～6年（関連施設の整備に合わせた緑化修景、植栽）
留意事項	● 各公共施設間の緑化修景の取組の連携（ゾーンでの一体感の考慮等）

【候補樹木イメージ】



キンモクセイ



ギンモクセイ

C:芝生広場と緑陰形成ゾーン【カフェ、大型遊具広場周辺】

【基本方針】

● にぎわいづくりの中心地として魅力の向上

【整備方針】

項 目	方針内容
樹木配置	● 既存樹木の適切な配置・樹間の確保 (計画的な間伐と剪定、池への視線を抜けさせ水辺の眺望確保) ● 桜の不良木の撤去・更新、良好な樹形の保全(特に池側) ● 大型遊具・カフェ周辺の芝生広場の拡充・整備、良好な芝生環境の維持 (子どもの安全な遊び環境、緑に触れる快適環境の向上) ● 周辺と調和する防風樹木の配置の検討(魅せる防風林)
彩計画 [候補樹木]	[春] ○オオシマザクラ、サトザクラ(3月中旬～4月上旬)
基盤整備	—
施設整備	◆ ベンチやあずまや等休憩施設の配置 (気持ちのよい木陰や遊具で遊ぶ子どもを見守れる箇所への配置)
概ねの実施時期 (主な取組)	▼ 短期1～3年(現状の良好な芝生の管理継続、計画的な伐採・剪定、パイロットエリア*活用の検討) ▼ 中期4～6年(桜その他樹木の更新)
留意事項	● パイロットエリア*事業化のための検討 ● カフェ等民間事業者との連携方策の検討(関連イベント開催等)

*パイロットエリアとは、市民等の発意により実験的・一時的に活用を促すエリアいう。P41～を参照。

【候補樹木イメージ】



オオシマザクラ



サトザクラ



芝生広場

D:水際の緑地形成ゾーン【グラウンドゴルフ場周辺】

[基本方針]

● 水辺を活かした緑地整備

[整備方針]

項 目	方針内容
樹木配置	●桜の不良木の撤去、部分更新⇒低木・草花の植樹 ●水辺を活かした植栽の検討（地被類、水生植物等）※実験的取組
彩計画 [候補樹木]	[春] ○ヤナギ（春の新緑時期） ・春の新緑から、落葉し枝垂れた樹形の風情を演出する。
基盤整備	◎土壌改良（水際地での検討）※植栽転換に合わせた土壌改良の検討 ◎スポット的盛土による土壌改良（桜）
施設整備	◆ベンチ等休憩施設配置（水辺沿い、園路沿い等）
概ねの実施時期 （主な取組）	▼短期1～3年（水際への草花・地被類等の植栽等） ▼中期4～6年（土壌改良等）
留意事項	●グラウンドゴルフ場の利用者による修景活動との連携（ゾーン一体での緑化修景の充実） ●水辺を活かした植栽活動への市民参加の検討

[候補樹木イメージ]



ヤナギ

E:桜並木育成・再生ゾーン【池東端周辺】

[基本方針]

● 桜並木の育成・再生（桜の回廊づくり）

[整備方針]

項 目	方針内容
樹木配置	● 良好木の保全、不良木の更新（桜並木の再生） ● 空地を活かした多種類の桜の植栽（多種類の桜による並木の拡充） ● 四季を感じる樹木の植栽 ● 既存の大木（アキニレ等）の保全、シンボルツリーとしての修景 ● 鉄塔跡地への桜をはじめ四季を感じる樹木の植栽の検討 （※短期においては経過観察とオープンスペースとして暫定活用の検討等）
彩計画 [候補樹木]	[春] ○ハクモクレン、コブシ（3月下旬～4月上旬） ○オオシマザクラ、サトザクラ（3月中旬～4月上旬） ○シダレザクラ（3月下旬～4月上旬） [冬] ○フユザクラ（11月～12月、4月（年2回）） ○カンヒザクラ（1月～3月） ・晩冬から初春・春にかけて彩りを演出し人を呼び込むことで回遊を生む。冬から春の花木を植栽し、現況樹林の中に「花のトンネル」を演出する。
基盤整備	◎ スポットの盛土による土壌改良（桜並木の拡充、桜種類の拡充） ◎ 鉄塔跡地への面的な土壌改良の検討 ※経過観察を踏まえた実施
施設整備	◆ ベンチ等休憩施設の配置（桜の回廊づくりを意識した施設配置） ◆ 緑地内園路（フットパス）の整備（盛土による植栽と合わせた）
概ねの実施時期 （主な取組）	▼ 短期1～3年（鉄塔跡地の経過観察と暫定活用の検討等） ▼ 中期4～6年（スポット土壌改良、暗渠排水、桜植樹、休憩施設整備、鉄塔跡地での検討を踏まえた整備）
留意事項	● 園路沿いの桜並木の形成（回廊づくり）における園路空間の確保に対する配慮（様々なイベントでの園路の活用を考慮した植樹のセットバックの検討等）

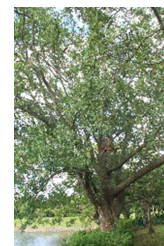
[候補樹木イメージ]



シダレザクラ



オオシマザクラ



アキニレ
（現存樹）

F:良好環境維持ゾーン【パターゴルフ場周辺】

【基本方針】

● パターゴルフ場としての緑地環境の保全

【整備方針】

項 目	方針内容
樹木配置	●ゴルフ場管理の中での保全の継続 ●鉄塔跡地-ゴルフ場エントランス部における植栽修景の検討 ●鉄塔跡地への桜をはじめ四季を感じる樹木の植栽の検討 (※短期においては経過観察とオープンスペースとして暫定活用の検討等)
彩計画 [候補樹木]	【緩衝緑地帯-工業地帯側】 [春] ○シマトネリコ (4月下旬～6月上旬 白花) [夏] ○ヤマモモ (6月～7月 赤い実) ○サングジュ (6月～7月 白花、9月～10月 赤い実) [秋] ○アキニレ (秋の黄葉)、○エノキ (秋の黄葉、実11月) ○カツラ (秋の黄葉) [ー] ○ユズリハ (葉柄の赤紫色が特徴) ・常緑樹主体の緩衝緑地帯の樹木の中で不良木を撤去・間伐し、花をつける常緑樹、葉(形状、色彩)が特徴的な樹木、秋に黄葉する樹木により彩を演出する。
基盤整備	—
施設整備	◆鉄塔跡地-ゴルフ場エントランス部における休憩施設等整備の検討
概ねの実施時期 (主な取組)	▼短期1～3年(予防保全管理の継続、鉄塔跡地整備の検討等)
留意事項	●パターゴルフ場利用者との連携による緑地環境整備の促進 (神之池緑地の緑化活動への参加の呼びかけ) ●パターゴルフ場の利用状況を踏まえた将来的な用途転換等の検討

【候補樹木イメージ】 ※緩衝緑地帯の植栽(樹種転換)イメージ



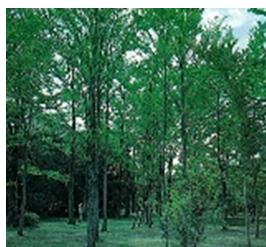
ユズリハ



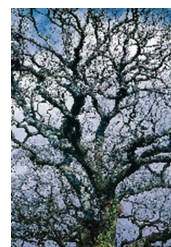
ヤマモモ



シマトネリコ



カツラ



エノキ



パンパスグラス

G:桜等の植替え・健全化ゾーン【ふれあい橋先、花壇・あずまや周辺】

【基本方針】

● 四季を彩る多様な植栽環境の整備

【整備方針】

項 目	方針内容
樹木配置	● 緩衝緑地帯の間伐・剪定による見通しや明るさの確保（鉄塔移設を契機とした不良木の除去等） ● 桜の古木の撤去更新⇒多品種の桜の植栽（土壌改良と合わせた） ● 四季を感じる樹木の植栽（土壌改良と合わせた） ● 既存花壇の改善・充実（テーマ性のある整備、四季の演出等） ● 鉄塔跡地への桜をはじめ四季を感じる樹木の植栽の検討（※短期においては経過観察とオープンスペースとして暫定活用の検討等）
彩計画 [候補樹木]	【緩衝緑地帯-工業地帯側】 [春] ○シマトネリコ（4月下旬～6月上旬 白花） [夏] ○ヤマモモ（6月～7月 赤い実） ○サンゴジュ（6月～7月 白花、9月～10月 赤い実） [秋] ○アキニレ（秋の黄葉）、○エノキ（秋の黄葉、実11月） ○カツラ（秋の黄葉） [ー] ○ユズリハ（葉柄の赤紫色が特徴） ・常緑樹主体の緩衝緑地帯の樹木の中で不良木を撤去・間伐し、花をつける常緑樹、葉（形状、色彩）が特徴的な樹木、秋に黄葉する樹木により彩を演出する。 【ふれあい橋より東側】 [春] ○カリステモン ピンクシャパン（5月～9月） ○オオシマザクラ（3月中旬～4月上旬）、シダレザクラ（3月下旬～4月上旬）、ヤエベニオオシマ（4月中旬～4月下旬） [夏] ○サルスベリ、ムクゲ（7月～9月） ・既存のサルスベリと合わせて、エキゾチックな花木（園芸種）を混植し夏の彩りを豊かにする。サルスベリも白・薄桃・紅を混色し彩り豊かにする。 [秋] ○モミジ（11月 秋の紅葉）、○オリーブ（10-11月 実）、柿（10月 実） ・オリーブは葉色のバリエーションを生み出す。実も魅力となる。 [冬] ○梅林（2月～3月） ・梅（白・薄桃・紅）を混色し彩り豊かに植栽する。 【ふれあい橋より西側】 [春] ○ハクモクレン、コブシ（3月下旬～4月上旬） ○シダレザクラ（3月下旬～4月上旬） ・限定したエリアで「彩り」の季節（春・夏）の先駆けとして点景で彩りを演出する。 [秋] ○モミジ（11月 秋の紅葉） ・様々な種類のモミジを混植して、彩りと葉の形状のバリエーションを演出する。

項 目	方針内容
	[冬] ○フユザクラ (11月～12月、4月 (年2回)) ○カンヒザクラ (1月～3月)
基盤整備	◎まとまりある空地を活かした面的な土壌改良 ◎スポット的盛土による土壌改良 ◎鉄塔跡地への面的な土壌改良の検討 ※経過観察を踏まえた実施
施設整備	◆ベンチ等休憩施設の配置、既存のあずまや等の改善 ◆緑地内園路 (フットパス) の修景整備、ネットワーク形成 (盛土による樹木更新、花壇改善と合わせた休憩施設や園路フットパスの整備)
概ねの実施時期 (主な取組)	▼短期1～3年 (鉄塔跡地の経過観察と暫定活用の検討、花壇改善等) ▼中期4～6年 (スポット土壌改良、面的な土壌改良、桜植樹、四季を感じる樹木植栽、休憩施設整備等) ▼長期7～10年 (鉄塔跡地での検討を踏まえた整備)
留意事項	●ゾーン内の彩テーマの詳細区分の検討 (桜種別、四季の樹種や草花、花壇改善等) ●鉄塔跡地 (4ヶ所それぞれ) の段階的整備の検討 (周辺の緩衝緑地も含めた整備の方向性、各跡地の連携等)

[候補樹木イメージ]

〈春～夏〉



ハクモクレン



カリステモン ピンクシャンパン
(薄桃・紅・白)

〈夏～秋〉



サルスベリ (紅・薄桃)



ムクゲ

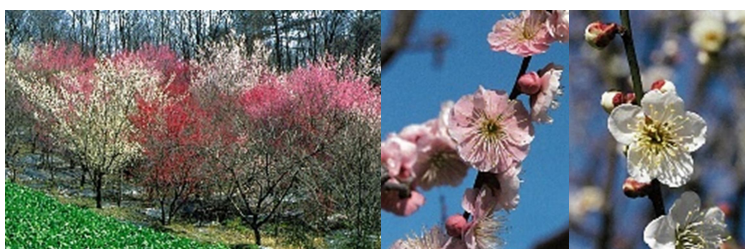


モミジ



オリーブ

〈冬～春〉



梅林 (薄桃・紅・白)



カンヒザクラ



フユザクラ

H:レクリエーション広場形成ゾーン【野球場、鉄塔周辺】

[基本方針]

● 対岸のにぎわい・交流拠点の形成

[整備方針]

項 目	方針内容
樹木配置	● 不良木の撤去、一部更新（土壌改良と合わせた） ● 芝生広場の整備 ● 緩衝緑地帯の間伐・剪定による見通しや明るさの確保（鉄塔移設を契機とした不良木の除去等） ● 鉄塔跡地への桜をはじめ四季を感じる樹木の植栽の検討（※短期においては経過観察とオープンスペースとして暫定活用の検討等）
彩計画 [候補樹木]	[冬] ○フユザクラ（11月～12月、4月（年2回）） ○カンヒザクラ（1月～3月）
基盤整備	◎スポット盛土による土壌改良（桜等の更新）
施設整備	◆ベンチ等休憩施設の配置（芝生広場の整備に合わせた）
概ねの実施時期 （主な取組）	▼短期1～3年（鉄塔跡地の経過観察と暫定活用の検討等） ▼中期4～6年（土壌改良、芝生広場の整備等） ▼長期7～10年（鉄塔跡地での検討を踏まえた整備）
留意事項	● 線路北側（庭球場、野球場周辺）からの池への見通し・眺望も考慮した緩衝緑地帯の整理 ● 鉄塔移設の影響等を見極めながら本計画の推進（※池中の鉄塔の移設期間（R6～8年度）は本ゾーンの整備は不可）

[候補樹木イメージ]



カンヒザクラ



フユザクラ



芝生広場



I: 並木改善ゾーン【池西端周辺】

【基本方針】

- 多様な樹木による園路沿い景観の改善

【整備方針】

項 目	方針内容
樹木配置	● 既存桜の保全（病理対策、間伐等） ● 老朽木の植替え、低木の植栽（住宅地側の木立の景観形成） ● 水辺側の低木植栽の改善（水辺の眺望確保のための高さ調整等）
彩計画 [候補樹木]	[春] ○カワヅザクラ（2月下旬～3月上旬） ○ソメイヨシノ、オオシマザクラ、サトザクラ（3月中下旬～4月上旬） ・不良木を撤去し、各季節の花木を新植する。
基盤整備	◎スポット的盛土による土壌改良
施設整備	—
概ねの実施時期 （主な取組）	▼短期1～3年（既存桜の保全、低木植栽の改善等） ▼中期4～6年（老朽木の植替え、低木の植栽等）
留意事項	● Aゾーンと連携した桜拠点形成に向けた整備（桜並木の連続性を確保等） ● イベント等での広い園路空間の活用促進

【候補樹木イメージ】



カワヅザクラ



サトザクラ



オオシマザクラ

全 域:

[整備方針]

項 目	方針内容
樹木配置	●緑地の明るさ（≒安全性）、親しみやすさを考慮した整備 ●てんぐ巣病対策の推進、早期発見早期対処（冬季中の措置が必要） ●桜の成長を意識した樹木間隔の確保（概ね8 m以上の確保等）
彩計画 [候補樹木]	○池周辺の複数箇所に、同季節の花木や紅葉する樹木をまとめて植栽するなど、来訪者の「回遊」を誘い、神之池の「にぎわい」、「彩り」を創出 ○同じ季節の花木でも、植栽する箇所で、異なる樹種を植栽するなど、彩りのバリエーションを豊富に ○鉄塔移設の跡地においては、これまでの常緑樹主体から、紅葉・黄葉する樹木、桜等の花木の混植を推進
基盤整備	◎土壌改良の取組に関する実施後の経過観察、今後の改善データの蓄積等
施設整備	◆ジョギング・ウォーキングコースの保全、舗装面の補修等 ◆橋の魅力づくり（花による修景、眺望点を意識した修景整備等） ◆周辺施設の改善整備の中での緑化修景や眺望確保に留意した整備
概ねの実施時期 （主な取組）	▼ゾーンをまたがり効率的に実施できる整備等については全体的な推進を図る
留意事項	●緑地や水辺を活かした様々なアクティビティを誘発する緑地づくりを考慮 ●花壇や植え込み等の整備や維持管理に係る市民参加のあり方について検討（桜守隊の活動とは別の市民参加のあり方の検討）